

インタ - ネット情報収集

インターネットでは、検索ソフトを使っても、なかなか思ったサイトが見つからない事が結構あります。そこで、ちょっとした工夫で情報を収集する方法と、「使える」ホームページ、気を付けておきたいネット犯罪についてレポートします。

1. インターネットで情報を探す

インターネットで情報を探す場合、一般に下記の3パターンがある。

<ネットサーフィン>

目的のサイトに関連深いページにリンクされている事が多い。また、リンク集を使えば、さらに確実に目的のサイトを検索できる。

<ディレクトリサービス>

あらかじめ、ビジネス、教養といった分類名(カテゴリ)で分類されているので親切。ただし、網羅性、HPの情報収集という点では検索エンジンよりやや劣る。

<検索エンジン>

網羅性、速報性に優れ、収集データ数も膨大である。しかし、キーワードが一致しないと検索もれを起こす。それぞれの検索エンジンにはキーワード入力に癖があるので、ポイントを掴めば比較的検索は容易である。

2. 検索エンジンを賢く使おう

入力したキーワードの違いで、検索結果に違いが生じる事があるので、下記の点に気を付ける。

- 半角・全角、大文字・小文字に気を付ける。(「WINDOWS」か「Windows」か)
- 音引きをつけるか。(「データ」か「データー」)
- 表現の揺らぎを吸収する場合としない場合がある。(「デジタル」か「ディジタル」)
- 部分一括検索をする場合としない場合がある。(「海」と「海洋」)
- 略語になっている場合、両方で検索してみる。(「デジカメ」か「デジタルカメラ」)

3. ヒット件数が0件になってしまう時

以下のケースはほとんど考えられないので、色々模索してみる事である。

キーワード(検索条件)の設定がうまく出来ていない。

キーワードを減らす、変更(同義語・類義語・略語・意味あいの近い言葉へ)分割する。

使用した検索エンジンが、該当するページを収録していない。

検索エンジンを変更する。(例えば yahoo!!を goo に変えるなど)

どこかに存在するが、検索エンジンの検索対象外になっている。

検索エンジンを離れ、調べたいトピックに関連の深い検索サイトを利用する。

該当するページが本当に存在しない。

4. 「使える」ホームページ

使えるホームページをご紹介します。

< 特許庁 特許電子図書館 <http://www.ipdl.jpo-miti.go.jp/homepg.ipdl> >

明治以降のおよそ4000万件の特許・実用新案、意匠、商標類の全情報を検索できる蓄積型データベース。特許情報を、インターネットを通じて誰でも無料で検索、閲覧出来る。

< KYODO NEWS <http://cnn.com/> >

日本全国と世界中に支局網を持つ共同通信のサイト。このコーナーを定期的に追いかけていけば、最新ニュースを漏らすことはまずない。15分ごとの速報体制で、38の地域新聞社のHPリンク集があるため、地方のニュースを入手するのに最適。

< スーパーサイトオークション(仮) <http://www.onsale.co.jp> >

日本のオンセールが、一般向けに99年6月頃、開始予定のパソコン関連商品のオークションサイト。オークション落札後、ヤマト運輸に保管され、時間指定での配送も可能。クーリングオフもあり。

< AMAZON.COM <http://www.amazon.com> >

すでにおなじみ、世界最大規模のオンライン書籍販売サイト。料金は書籍代と送料、本1冊ごとの手数料で、送料と手数料は発送方法により異なる。送料を含めても、国内書店で買うより安く、発送後の詳細な荷物追跡が出来る。また、日本語サイトはないが、Amazon.Comよりも迅速で、絶版本まで探してくれるバーンズ&ノブル< <http://www.barnesandnoble.com> >との2強対決になっている。

< CAS Tour <http://www.castour.co.jp> >

インターネットに特化した海外格安航空券専門の「CAS Tour」、取り扱いは東京発着便だけだが、売上高では日本一を誇る。メール対応は極めて迅速、ただしCASから電話をかけてくる事はない。また、ラッキーメール会員になると、ほかでは入手出来ない破格値の情報が飛び込む事もある。

5. ネット犯罪

インターネットは手軽に利用できるのが特徴であるが、手軽だから即安全というわけにはいかない。ネット犯罪に巻き込まれる可能性は誰にでもある。十分に気を付けて、賢くインターネットを活用したいものである。

< 個人情報流出 >

電話番号や住所などがネットから流出すると、思わぬトラブルに巻き込まれる。さらに掲示板などの目に付く場所に無断公開される事で、さらに被害は拡大する。また、インターネットへの接続パスワードやクレジットカード番号などの個人情報を盗んだり、ファイルやシステムを破壊するクラッカー(悪意のあるネットワーク侵入者)もいるので、重要な情報の取り扱いには気を付けなければならない。

<迷惑メール>

DM、チェーンメール（不幸の手紙）、メールボム（大量のメール送信でメールボックスをパンクさせる）など、面白半分に送ってきたり、悪意を持って送られる事もある。

<コンピュータウイルス>

悪質なものになると、ハード内のデータを全て消してしまうものもある。99年には「メリッサ」「チェルノブイリ」が世界中で被害をもたらしただけでなく、変種ウイルス、デマウイルスも出回っている。

<オンラインショッピング詐欺>

オンラインで開業しているのは、必ずしも優良なサイトばかりではない。詐欺を目的としたものもあり、詐欺に気づいた時には、HP自体が存在しない事もある。

以上